

令和7年度 りんでん幼稚園自己評価結果公表シート

1 本園の教育目標

『仏教保育』

仏教保育を通して、報恩と感謝の心を育み、明るく素直で、人の話を集中して聞くことができる態度の育成に努めます。

本園では、めざす幼児像として次の項目をあげる

- ① ありがとう ごめんなさい が素直に言える子ども
- ② 友達とのつながりを理解し、思いやりのある子ども
- ③ ひとつのことを続けていくことで楽しみを見つけられる子ども

『心の教育』

「幼児期にしっかりと愛情こめて育てる事により小学校で根付き中学校で花が咲く」

いかに幼児期が大切であるか幼稚園生活を通して、ほとけ様の心【心の教育】を育んでいます。

- ① 「すみません」という反省の心
- ② 「はい」という素直な心
- ③ 「おかげさまで」という謙譲な心
- ④ 「私がします」という奉仕の心
- ④ 「ありがとう」という感謝の心

『音体教育（鼓笛を通して）』

鼓笛とは、音楽・体育をもとにし「生きる力」「リズム感」「感性」を培っていく教育です。

そのために本園では、鼓笛を通して、「美しい姿勢」・「挨拶」・「けじめのつけられる生活」（遊ぶ時は遊び、頑張る時は頑張る）が身につく、協調性、集中力、忍耐力を養い、日々の練習を積み重ねて、努力をし、最後まであきらめず自信をもち、子ども達が【自分で考えて行動できる】ように取り組んでいます。

鼓笛は一人ではなく、みんなで力を合わせないとできません。悔しい気持ち嬉しい気持ちがわかる子ども達だからこそ、お友達に思いやりをもって、力を合わせる事の大切さを知ることができます。

ひとつのことを頑張るということは、この年齢ではとても大変なことです。「できない！」と悔しい気持ちになったり、また悲しい気持ちになったりする時もあります。

だからこそ、「できた！！」「やった！！」という喜びを大切に、『できた！』喜びや達成感をお友達や職員と共に共感することで自信へとつながります。

最後までやりとげられる力を、鼓笛マーチングを通して体得することができ、この力は将来子ども達の【生きる力】となり、誇りをもって生きていく力になると確信しています。

2 本年度の重点的な目標・計画

全職員が共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるように教育内容の改善に取り組んでいく。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

課題	具体的な取り組み方法
教育課程 ① 仏教の行事や週例参拝を通して、心の教育を育む。 ② 友達との関わりを通して、協力することや達成感を味わう。 ③ 自由に表現する楽しさを感じる。	・紙芝居を通して、花まつりや成道会、涅槃会などの仏教の教えを知り、命の大切さを感じることができた。 ・毎月の徳目を、子どもたちなりに解釈し、日常生活に活かす姿が見られた。 ・花まつり後、年長の代表園児が消防署を訪問し、感謝の気持ちを伝える活動を通して、地域社会との関わりを持つことができた。 ・クラス目標を全員で相談して決め、目標通りのクラスになれるように声を掛け合い、意識して行動することができた。 ・鼓笛演奏を通して、目標に向かい、みんなで演奏・演技を合わせることで、協調性を身につけ、達成感を味わえるようにした。 ・年長児は、ドッチボール大会やクラス対抗の集団遊びで、団結力を養い、勝敗を通して様々な感情を経験できるようにした。 ・運動会や作品展、発表会の大きな行事に取り組む時は、子どもたちの意見を聞きながら、子ども同士で声を掛け合い、協力する大切さを意識することで、積極的に挑戦し、達成感を味わうことができた。 ・廃材遊びや鼓笛練習など、他の学年と関わる時間を作ることで、物事への興味関心が深まり、自由遊びの時間は異年齢で遊ぶ姿が増えた。 ・廃材遊びでは、チームでテーマを決め、子どもたちが作りたいものを自分で考えて、材料や道具を選び、製作することを楽しんだ。 ・年少児の楽器遊びやリトミックでは、自分のカスタネットを使用して、持ち方や叩き方を知り、音楽やリズムに合わせて表現することを楽しんだ。 ・育てたオクラを使って、星や花束に見立ててスタンプにし、自由にメッセージカードを作った。

④ 自然や生き物との関わりを楽しむ。	・ 苗から植えたナスを収穫し、実際にできた実を観察しながら七夕の製作物を作り、季節を感じながら保育をすることができた。 ・ 外に咲いていた花の名前を園で調べ、みんなの前で発表することで、季節の花に興味を持つことができた。 ・ 各学年で生き物を飼育することで、生き物への関心や命の大切さを知ることができた。 ・ 動物村では、様々な動物に触れ合い、餌やりの経験をし、生き物の温もりに触れ、生き物や命を大切にしようとする気持ちを育んだ。
研修・園内研修の充実	・ 月に一度の園内研修では、様々な題材をテーマに研修に取り組むことができ、職員間のコミュニケーションの場にもなった。 ・ 外部の研修を受け、気になる子どもへの具体的な関わりや保護者への対応について学ぶことができた。 ・ 外部講師による研修を受け、今までにない視点からの新たな知識を得ることができた。
幼稚園と家庭、地域との連携	・ 外部の専門機関と連携を取り、子どもの情報を共有することで、より子ども達が過ごしやすい環境を整えることができた。 ・ 年に2回の懇談日を設け、園での様子と家庭での様子を共有し、保護者の悩みに寄り添って、子どもの成長のためにどのように関わるべきか一緒に考えることができた。 ・ 保育参観では、普段の子どもの様子やクラス全体の雰囲気を知ってもらうことができ、親子で製作や体操を楽しむ時間を作ることができた。 ・ 近隣の中学校の職業体験行事を通して、地域との交流をもつことができた。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育課程の更なる見直し

- ・毎月の徳目の意味を理解できるように、わかりやすい言葉で伝えたり、ホワイトボードに書いて、視覚的に意識できるようにしたことで、日常生活に活かす子どもが増えた。
- ・設定保育の時間を減らすことで、自由時間を増やすことができ、子ども一人ひとりとの関わりの充実や余裕を持てた保育を行うことができた。
- ・クラス混合での鼓笛練習を通して、普段と異なる環境ができたため、子ども同士の刺激があり、お互いを高め合いながら取り組むことができた。また、クラス間での進捗の差が減少した。
- ・育てた植物を製作に活かすことで、普段とは違った表現をすることができた。

研修・園内研修の充実

- ・外部から講師を招くことで、専門的な知識や保育方法を学び、実際の保育に取り入れたり、子どもたちと関わる中で活かしたりすることができた。
- ・園内研修で、運動・手遊び・保護者対応など、様々な題材について学んだため、保育や保護者との関わりに取り入れることができた。

幼稚園と家庭との連携の充実

- ・保護者の悩みを聞き、改善策を専門の先生からアドバイスをいただいたことで、園と家庭で協力して関わることができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	令和7年度 課題点・具体的な取り組み方法
教育課程の確認・見直し	・年少組は、安全面から1学期のハサミの使用回数が少なくなってしまったため、少しずつ使う機会を作っていく。 ・年長組は、年度当初から鼓笛の練習以外でも他のクラスとの交流を深められるように、横割り保育の機会を増やしていく。 ・体力測定が年に1回になったため、他の活動に時間を使うことができたが、各種目の記録が低くなった。今後は、練習する機会を増やしていく。 ・作品展の背景をなくしたことで簡略化することはできたが、協力して作り上げる物が減ったため、来年度からはホワイトボードのサイズに合わせた背景を作るかどうかを検討する。
外部研修・園内研修の充実	・外部研修の内容を全体で共有し、研修を受けていない保育者も学ぶことができればいいと感じた。 ・園内研修の内容を考案することや準備に時間を要するため、1年間の研修内容を事前に学年で決めておくことで、より内容の濃い研修ができると感じた。

幼稚園と家庭との連携	・職員間の情報共有が遅れ、保護者の不安に繋がったため、迅速な対応を心掛ける。 ・保育参観と土曜参観の日程が近く、あまり子どもの姿に変化が見られないため、期間を空けることで、子どもたちの様々な姿を見てもらえるようになると思う。 ・年少組の5月の保育参観では、満3歳児の入園後すぐであったため、子どもが落ち着いておらず、大変だったため、保育内容を見直す。
------------	---

6 今後取り組むべき課題（学校評価委員からの意見）

●教育課程の確認・見直し

- ・ハサミの使用回数が減ってきたとの記述がありましたが、現在小学1年生のクラスの担任（初任者）の支援に入っていると、ハサミやノリの使い方のうまい児童とそうでない児童がいることがわかります。特性でうまく使えない児童もいますが、あまり、使いこなしていないからうまく使えないという児童も見受けられます。幼稚園で十分指導していただければ、小学校ではとても助かります。とても大切なことだと思います。
- ・昨年度の取り組みを拝見すると、「クラス目標を全員で相談」「子どもたちの意見を聞きながら子ども同士で協力」「チームでテーマを決め」など、子どもたちが協力して活動しているのがよくわかります。
- ・小学校低学年でも、「見てみて」が多く、一人ひとりに指示を出さないといけない場面が多いです。1年生から、授業やいろいろな機会の中で、「横の友だちと相談してみて。」「横の友だちに自分の言いたいことを言ってみて。」など、友だちとの交流を増やす取り組みを行っています。その中で、「最後までお話を聞く。」「最後までお話を聞いて、わからなかったら質問して聞く。」などの学習規律を教えています。
- ・仏教の行事を通して、子ども達が自然に仏教の教えを知り、命の大切さを感じ、日常生活に最高の生活習慣として活かしていける、押し付けではなく、種々の事柄を理解の上で行動できる自然体で子ども達の育成につながっていると思います。
- ・日々の取り組みを通して、友だちとの関わり、協力する事の喜びと達成感を味わい、又、種々の行事（運動会、生活発表会、作品展等）を通して、子ども達が相談し、声かけ合っての励まし、努力する喜びを味わい、意識せず、無理なく自然体で成長につながっていると思います。
- ・生活発表会を見て、作品展の各組のテーマが連携していたのに感心しました。一年を通じた教育が、よく考えられていると思います。
- ・教育課程の①～④を真摯に実施されている事に評価します。
- ・園児の「生きる力」を育むために、自ら考え行動する力が身についていると思われます。
- ・仏教保育を根底にしたていねいな教育・保育を継続され、さまざまな行事を通して、子ども同士がつながり、思いやりの心や協力する心が育っている。
- ・鼓笛を通しての「音体教育」は、貴園の特色であり、子ども達の心の成長によりよい影響を与えている活動である。
- ・先生方が共通理解を図り、つねに、教育内容をふりかえり、改善に取り組んでおられる。

●研修・園内研修の充実

- ・研修を受けていない保育者のフォローはとても大切だと思います。小学校現場でも、「教職員以外に介助員」「学習サポーター」「学びサポーター」「図書支援員」「業務サポーター」など多種の人たちが学校にかかわってもらっています。児童の支援に必要なことの共通理解などは注意深くされています。
- ・特に特性の豊かな園児が増えてきています。一人ひとりの特性に対する支援の仕方の研修は、これから幼稚園でも必須になってくると思います。
- ・忙しい日々の生活の中で、研修を計画、遂行する事は大変な事と思うけれど、職員間の連携や、保護者に対しても、共通した対応が必要だと思うし、是非、続けて、日々の事例に合った研修を続けていただきたいと思います。そんな中、なかなか時間的にむずかしい処もあるでしょうが、地域の保幼小のそれぞれの取り組み状況は異なっても紹介しあう事も含めて、連携を考えていければと思います。他の幼稚園や保育園が紹介しあったり、小学校の取り組みや授業光景を参観する機会があつていいのではないかと思います。
- ・外部の研修、外部講師による研修を受けられているのは、大変良い事だと思います。これからも継続してください。
- ・今後も研修会を通して、さらなる自己研鑽に励んでください。
- ・保育の質を向上するためには、研修は重要であり、月に一度の園内研修は、大変有意義である。
- ・教員全員が共通理解のもと、今の保育について語り合い、よりよい保育を今後とも追究していただく。

●幼稚園と家庭の連携

- ・専門機関と連携を取り、保護者の悩みに寄り添って運営されているのに敬意を表します。
SNSなどで知らない情報で振り回される保護者も結構おられると思います。正確な情報発信で保護者へも安心して園とかかわっていただけるようにできればいいと思います。
- ・昨今の異常な気象の変化で子どもたちも大変な生活を強いられている場面が出てくると思います。
小学校でも、先週5月半ばでエアコンを稼働させています。園児の体調管理をご家庭と密にとつていくことがますます大切になるように思います。園行事の日程も、気候に合わせて変更が必要になってくるかもしれませんね。(小学校の運動会が10月後半から11月に変更になっている学校が増えてきました。)
- ・年2回の懇談会を設けられたり、外部機関との連携により、子どもの情報の共有から生活しやすく、又、環境を整えると言う事は、子ども達が生活しやすい場として、くふうしておられる事、感銘をうけます。子ども達は家庭の姿と園の姿とは、当然いささかの違いがあり、異なった行動をする場面もあると思います。その辺からも、話しの合いの中から、子どもの成長にどのように関わるか、保護者の悩みに寄りそう、一緒に考える場は引き続き回数関係なく計画的にお願いします。近隣中学校の職業体験に加えて、小学校の一年生の授業光景見学だとか、遊びを通して、小学校に進級する希望だとか、仲間意識を培うという事も考えてみられるのは如何でしょう。
- ・家庭との連携は大切な事だと思います。貴園にとっては、かなり大変な負荷でしょうが、これからも継続してください。
- ・家庭との丁寧な連携が伺えます。
- ・子どものことについて、専門機関と連携し、さまざまな切り口から見立てができるので、子どもにとってすこししやすい環境となる。

- ・保護者に園の保育を知ってもらうことは、あたり前のことであり、参観の内容を工夫されていることは、とてもよい取組である。

●その他の意見や感想

- ・昨年、ある小学校区の人権啓発の会合で、「発達に課題のある人(発達症)」と「愛着に課題のある人(愛着症)」の違いの研修をしていただきました。同じような行動であっても愛着からくる困り感と発達からくる困り感では、指導、支援の仕方が変わってくると教わりました。今までも、様々な園児さんを受け入れられていると思いますが、今以上にたくさん子どもたちに寄り添った園運営されることを希望します。
- ・毎年、各種行事にご招待いただき、ありがとうございます。見学させていただくのが楽しみです。特に、運動会と生活発表会は、年少組・年中組・年長組と組毎に成長がうかがわれ、楽しいだけでなく頼もしく感じます。
- ・夏まつりが非常に暑い中、毎年実施されていますが、園児さんや先生方の健康が心配です。何か方法はないのでしょうか。
- ・貴園の保護者への情報発信としてホームページの活用はもちろんだが、SNS の活用、例えばインスタグラムの活用は、されていないのか？積極的に取り組むことができればいいのではないか、少子化の現状からも、貴園のよさや特色を広く知ってもらう、一つの大きな手法になるのではと考える。